



内容

センター活動報告 1

7TH CROSS-DISCIPLINARY MEETING OF JAPANESE YOUNG SCIENTISTS IN EUROPE に参加 1

ライプチヒ大学教育科学部・広島大学大学院教育学研究科国際シンポジウムに参加 1

第4回ドイツ物理学・応用物理学セミナーに参加 1

ケルン日本文化会館講演会「日本と宇宙」に参加 2

日本人研究者ネットワーク (JR-NET) 連絡会議を開催 2

JSPS ABEND を開催 3

HEKKSAGON 学長会議に参加 3

センター長コラム 4

ドイツ学術ニュース 5

センターからのお知らせ 21

【表紙写真: Drachenburg 城から臨むライン川】JSPS Bonn Office や日本人スタッフの住居から程近いライン川対岸のエリアに、Königswinter という町があります。ここにある Drachenfels („Dragon’s Rock“) という丘の上には Drachenfels 城の廃墟が聳えており、『ニーベルンゲンの歌』に登場するジークフリートがドラゴンを倒し、返り血を浴びて不死になったという伝説が残されています。また、丘の中腹には瀟洒な Drachenburg 城があり、こちらは 19 世紀に裕福な銀行家が別荘として建造したもので、現在は一般に公開され、観光客でにぎわっています。また、土産物屋では伝説に因んだ「Drachenblut (Dragon blood)」と名付けられたワインが販売されています。

センター活動報告

7th Cross-disciplinary Meeting of Japanese Young Scientists in Europe に参加

日 時: 2019年8月3日(土)～8月4日(日)

場 所: Gustav-Stresemann-Institut (ボン)

参加者: 林センター長、出口副センター長

7th Cross-disciplinary Meeting of Japanese Young Scientists in Europe が8月3日から4日にかけてボンで開催され、ボン研究連絡センターから林センター長及び出口副センター長が参加しました。本イベントは、ドイツをはじめヨーロッパ各地に滞在する日本人若手研究者による分野横断的なミーティングとして毎年夏に開催されており、ドイツのほかスイス、イタリアから合計20名の若手研究者が参加しました。

1日目午後には2セッション、2日目午前には2セッションが設けてあり、参加した若手研究者が自己紹介と各自の研究内容について1名15分ずつ順番で紹介していく形式で行われました。1日目には林センター長が「最近の天文学の話題から」と題した講演を、2日目には出口副センター長が「JSPS ボン研究連絡センター在独日本人研究者支援及びJSPS 国際交流事業」と題したプレゼンテーションを行いました。コーヒープレイクや1日目終了後の夕食会では、活発な情報交換が行われるとともに、ボン研究連絡センターに対して、在独の日本人若手研究者支援のための要望等もいただきました。

昨年に引き続き、ボン研究連絡センターからは今回のイベントの会場費支援を行いました。過去には研究内容の発表を通じて国際共著論文に繋がったという実績もあり、今後の交流活動やネットワークの更なる強化が期待されます。

ライプツヒ大学教育科学部・広島大学大学院教育学研究科国際シンポジウムに参加

日 時: 2019年8月30日(金)

場 所: ライプツヒ大学 (Leipzig University)

参加者: 渡邊国際協力員

8月30日(金)、広島大学大学院教育学研究科とライプツヒ大学教育科学部による国際シンポジウムがライプツヒ大学で開催され、ボン研究連絡センターから渡邊国際協力員が参加し、JSPS の国際交流事業についてプレゼンテーションを行いました。

両大学は、2016年に部局間協定を締結して以来、毎年国際シンポジウムを開催しています。当日は、両大学からの教員・大学院生を含む30名程の参加者が集まりました。午前の部は、両大学における教員養成について講演が行われた後、ライプツヒ大学教育科学部の関連施設や附属幼稚園の訪問見学を行いました。午後の部では、授業研究、幼児教育、教師教育の3分野に分かれて研究ワークショップが開催され、活発な議論が交わされました。ライプツヒ大学の Reinhold 教育科学部長、広島大学の丸山副学長、小山教育学研究科長からのそれぞれの挨拶では、研究交流の成果を祝福するとともに、今後への期待が述べられました。

第4回ドイツ物理学・応用物理学セミナーに参加

日 時: 2019年9月6日(金)

場 所: ケルン大学 (University of Cologne)

参加者: 林センター長、渡邊国際協力員

9月6日(金)、第4回ドイツ物理学・応用物理学セミナーがケルン大学で開催され、ボン研究連絡センターから林センター長と渡邊国際協力員が参加しました。本セミナーは、ドイツにて物理学の研究に携わっている研究者同士の交流、ドイツでの物

理学研究者ネットワークの構築を目的としたイベントで毎年開催されており、今回はドイツ、日本から10名の研究者や大学院生が参加しました。



▲集合写真

はじめにケルン大学・安藤陽一教授の招待講演が行われ、その後の若手特別講演、一般講演でも活発な意見交換、質疑応答が行われました。

また、渡邊国際協力員は、在独日本人研究者支援及び国際交流事業をはじめとする JSPS の事業説明を行いました。セミナー

終了後は、ケルン大学・安藤教授の研究室を訪問し、参加者は充実した研究設備を見学することができました。本ネットワークを通じて、物理学・応用物理学分野の在独日本人研究者の交流が更に深まることが期待されます。

ケルン日本文化会館講演会「日本と宇宙」に参加

日時: 2019年9月7日(土)

場所: ケルン日本文化会館 (Japanisches Kulturinstitut)

参加者: 林センター長、出口副センター長、渡邊国際協力員、宇美国際協力員

9月7日(土)、講演会「日本と宇宙」がケルン日本文化会館で開催され、ボン研究連絡センターから林センター長が講演者として出席し、出口副センター長、渡邊・宇美国際協力員が同行しました。

はじめにマックス・プランク研究所宇宙物理学研究所(ゲーリング)の所長である小松英一郎教授が、「宇宙の始まり、そして終わり/Anfang und Ende des Universums」と題して講演され、最先端の研究から判明しつつある宇宙の姿や、天文学者がどのような研究活動をしているかについて紹介されました。

次に、林センター長が「日本と宇宙観測/Japan und astronomische Beobachtungen」と題し、ハワイ観測所での活動やすばる望遠鏡で撮影した天体写真を紹介して下さった他、日本の歴史における天文学について、古典文学を参考にお話していただきました。

どちらの講演も、ケルン日本文化会館の相澤啓一館長がドイツ語の同時通訳を務められ、会場内からも活発に質問が飛び交いました。



▲小松英一郎教授(左)と相澤啓一館長(右)



▲林センター長の講演

日本人研究者ネットワーク(JR-Net) 連絡会議を開催

日時: 2019年9月9日(月)

場所: ホテルプリストル(ボン)

本センターでは2014年からドイツで研究する日本人研究者の意見交換の場として、日本人研究者ネットワーク(JR-Net)連絡会議を開催しています。今年もドイツ語圏の大学、研究機関で活躍している日本人研究者3名と、在欧の日本人研究者ネットワーク世話人2名を招き、本会からは東京本部の増子副理事及び青山国際企画課係長、本センターからは林センター長及び出口副センター長が出席して意見交換を行いました。

会議では、在欧の日本人研究者ネットワークの活動状況について各世話人から説明や今後の課題についての情報共有があり、本会からは各種国際交流事業や、海外特別研究員制度などの日本人研究者を諸外国に派遣する事業及び外国人研究者招へい事業、科学研究費補助金の「国際共同研究加

速基金(帰国発展研究)」等について説明を行うとともに、ボンセンターからは、2016年度から開催している在独の海外特別研究員を対象としたオリエンテーションなどのセンターでの取り組みとその課題について報告・意見交換を行いました。会議後半では、子育て終了後の女性研究者の支援になるようなプログラムを立ち上げてほしいという要望や、人文科学の研究者のネットワーキングについてなど、活発に意見交換が行われました。



▲会議の様子

JSPS Abend を開催

日時: 2019年9月9日(月)

場所: ホテルブリストル(ボン)



9月9日、ボン研究連絡センターは年次活動報告会“JSPS Abend”を開催しました。今年度は例年の催しに加え、DFG主催のザイボルト賞受賞式も同時開催され、ドイツにおける本会対応機関、および日独の学術関係者100名超が招待されました。

本会増子則義副理事によるJSPS Abend開会の辞に続き、ドイツ研究振興協会のベッカー副理事(Katja Becker)と、ボン大学のホップホ学長(Michael Hoch)よりザイボルト賞受賞式開催の挨拶と祝辞が述べられました。その後ベッカー副理事より早稲田大学の縣公一郎教授とマックス・プランク外国私法・国際私法研究所のバウム教授(Harald Baum)に賞状が授与されました。

次いでフンボルト財団パーペ事務総長(Hans-Christian Pape)、DFGのフォン・カルム国際部長兼総括部長、在デュッセルドルフ日本国総領事館の礒正人総領事より祝辞を賜り、JSPSドイツ同窓会のHeinrich Menkhaus会長の乾杯のご発声をいただき、参加者はピアノとヴァイオリンの二重奏を楽しみながら親睦を深めていました。

会の後半に差し掛かると、縣教授とBaum教授より、ご自身の研究活動や日独間の研究協力に関して発表がありました。

最後にDFGのJörg Schneider国際部長、ならびに林センター長からの挨拶をもって、盛況のうちに閉会しました。



▲DFGのベッカー副理事(左)、フンボルト財団パーペ事務総長(中央)、フォン・カルム国際部長兼総括部長(右)



▲ザイボルト賞授賞式の様子、バウム教授(左)、ベッカー副理事(中央)、縣公一郎教授(右)



▲会場の様子

HeKKSaGOn 学長会議に参加

日時: 2019年9月12日(木)、13日(金)

場所: ハイデルベルク大学(Ruprecht-Karls-Universität Heidelberg)

参加者: 林センター長

9月12日と13日の2日間、ハイデルベルク大学でHeKKSaGOn学長会議が開催され、林センター長が参加しました。HeKKSaGOnは、日本側が京都大学、大阪大学、東北大

学、ドイツ側がハイデルベルク大学、ゲッティンゲン大学、カールスルーエ工科大学からなる国際協力関係(研究大学ネットワーク)であり、学生や研究者の交流、共同研究プログラム等を実施しています。



▲Heidelberg大学Centre for Asian and Transcultural Studiesの図書館の中庭。仏教と陰陽道と暮からインスピレーションを受けたデザインとのこと。

2010年に設立され、これまでネットワークと呼ばれていましたが、今回からアライアンスと呼ぶこととなりました。その方向性を決めるのが HeKKSaGOn 学長会議で、概ね1年半毎に構成大学のひとつにて順番に開催されます。今回から2順目に入り、9年ぶりにハイデルベルク大学で開催されました。学長会議と並行して、いくつかの研究テーマに沿ったワークショップが開催され、また

学生のためのワークショップも開かれました。研究テーマは、両国の共同研究として研究者側から申請されたものをもとに、学長たちのビジョンに沿うものを選ぶようです。日本のひとつの大学が、ヨーロッパのひとつの大学と行う国際協力に比べて、ビジビリティが高く、効率よく活発な協力がなされているという印象を受けました。

センター長コラム

ドイツに来て1年が過ぎた。1年前の着任時に前任の小平先生から言われたのは、「ドイツの良いところしか目につかないかもしれないが、そのうち日本の良いところも出てくるから...」とのことだった。今のところ日本の良いところと言えば、電車が時間通りに運行されることや、レストランの店員がおもてなし精神にあふれているといったところか...。これはこれで精神の安定にとっては重要なのだが。

それにしても、この国のリーダーは「学問の自由」をよく口にします。この言葉は、日本では研究に対して何らかの圧力を受けたときや、学者が言う例がほとんどで、政治家から聞いた経験が私にはない。ところがドイツでは、昨年秋に聞いたシュタインマイヤー大統領の祝辞（※1；ぼんぼん時計 No. 62）をはじめとして、今年3月にあったライプニッツ賞の授賞式（ぼんぼん時計 No. 63）のカリチェック連邦教育研究大臣の祝辞（※2）も、「学問の自由」がテーマだった。大学長や学術助成機関長らの挨拶にも、「学問の自由」という言葉が頻りに登場する。

あまりに頻りに耳にするので、このところ学問の自由について少し考えるようになった。

そもそも学問の自由はなぜ必要なのか。これは今までにもときどき考えたことがある。あらゆる制約から解放されて、真に自由な状態であれば、人間は全く新たな着想にたどり着けないからである。だから学問は、そういう自由な状態に置かれた人々がいる地域でしか発展してこなかった。ギリシャがそうであり、近代ヨーロッパがそうであった。というのが、若いころから思っていたことだ。

これだと、学問の自由は学問自身のためという論理になって、「循環論法になっていないか？」という疑問が湧く。学問が発展する地域では文明が発展し、結果として人類に貢献するのだから、これでも良いのかもしれない。

シュタインマイヤー大統領の祝辞（※1）では、民主主義の話をしてははずなのに、どこからともなく学問の自由の話になっていく。これが、カリチェック大臣の祝辞（※2）だと、学問の自由は民主主義の根幹だ（※3）といきなり断言している。学問の自由と民主主義との関係は、あまり考えたことがなかった。

どんな政体でもそうだが、民主主義でも必ずしも正しいことが行われるとは限らず、往々にして人々を不幸に陥れる。だからこそ、時の為政者から全く独立して真実を追求することが必要であり、民主主義の担い手は、その真実に依拠して自分たちの行く手を決める必要があるのだろう。特に、その真実が多数の人々にとって心地よくない場合にこそ、真実を追求する学問の自由の重要性は増す。

こう解釈してみると、なるほどドイツでは学問の自由は極めて重要で、現在の繁栄の根幹である民主主義を守るために、為政者が学問の自由を守り通さねばならないと考えている理由も理解できる。かつて民主主体制下で全体主義へと進んで第二次大戦を始めるに至った経験を、この国は決して忘れてはいないのだ。

ところで、私たち日本の学者にとっては学問の自由は当然の権利と思われるようだが、これが保証されている国は世界でさほど多くはない。いわゆる「日本と価値観を同じくする」国々を除けば、学問の自由などない国が大部分であろう。昨今の世界情勢を見ると、ドイツのリーダーたちが学問の自由に対して、あるいは民主主義に対して、危機感を募らせるのも分かる気がする。

※1:<http://www.bundespraesident.de/SharedDocs/Reden/DE/Frank-Walter-Steinmeier/Reden/2018/10/181018-Bonn-200Jahre-Uni.html>

※2: <https://www.bmbf.de/de/ein-fest-fuer-wissenschaftliche-exzellenz-8110.html>

※3: "Die Freiheit der Wissenschaft ist ein Grundpfeiler unserer Demokratie."



▲【写真】ケルンの人権公園で見かけた遊歩道の埋め込み標識。

ドイツ学術ニュース

研究における動物実験：動物福祉と研究の質の狭間で

ドイツ研究振興協会（DFG：Deutsche Forschungsgemeinschaft）の評議委員会がガイドラインを発表

研究での動物実験において、研究の最高の質と高い動物福祉基準の両方を保証することは重要なことであるが、実際にはそれは未だ相互依存と論争を引き起こしている。ドイツ研究振興協会（DFG：Deutsche Forschungsgemeinschaft）の動物保護と動物実験に係る常任評議委員会は、研究者たちに、科学的に妥当なプロジェクト設計になくはない存在として動物福祉指針にコミットするよう求めている。この目標を支援するため、評議委員会は動物実験を含む研究プロジェクトの設計・計画・実施ガイドラインを発表した。

「これらのガイドラインによって、評議委員会は研究における動物実験の基本的なふたつの局面—動物福祉と科学的妥当性—の間に密接な関連性を設けたいと思っている。」と、委員長である Brigitte Vollmar 教授は言う。「私たちは研究で動物実験を行うために特定の要件を明確にしており、動物実験研究を計画・説明する際、どのように妥当性を確保するかについての支援の手を差し伸べている。」

発表された『研究における動物実験：3R原則と科学研究の妥当性』は、研究での動物実験と科学研究プロジェクトの妥当性との間の関係を、とりわけ 3R 原則にのっとって強調している。3R 原則は、研究者たちに、動物実験をできるかぎり代替手段に置き換えること（replace）、実験で使用する動物の数を

減らすこと（reduce）、動物たちに与える苦痛を最小限にするなど、実験を改良すること（refine）を義務付けている。評議委員会は 3R 原則を守り、実行することは必須であるが、一方で科学的に妥当なプロジェクト設計との組み合わせにおいてのみ意味をなすものであることに言及している。両局面が十分に発揮された場合にのみ、動物実験における科学的妥当性、実験反復可能性、動物福祉が保証される。

評議委員会によると、実験による研究結果の科学的妥当性は、主として、動物モデルの質、原因と結果の間の仮定関係の質、実験の結果が実験の特定の状況を超えて一般化され得る度合などによるとのことだ。最終的に、ガイドラインは、例えば動物種を選択や（実験に使う）動物の数を決定するときなど、研究実施において生じる衝突が起こる部分を特定し、それらにどのように対処するかについて推奨される方法を提案している。

「これらふたつの局面—動物福祉と科学的妥当性—は、不可分に関連しあっているので、研究プロジェクトを設計・説明する際の初期の段階で、科学界全体で考慮に入れる必要があるのです。」と Vollmar 教授は述べている。

2019 年 7 月 17 日

DFG: Animal Experimentation in Research: Between Animal Welfare and Scientific Quality

https://www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2019/press_release_no_33/index.html

ドイツ、エクセレンス・ストラテジーにおける最終決定： エクセレンス委員会は 10 大学と 1 大学コンソーシアムを選定

ドイツ学術審議会とドイツ研究振興協会との共同プレスリリース、2019 年 7 月 19 日

2019 年 7 月 19 日、エクセレンス委員会はドイツのエクセレンス・ストラテジーにおける「エクセレンス大学」事業の最初の公募において、待望の決定を下した。19 件の申請のうち、10 の大学と 1 つの大学コンソーシアムが選定され、機関への恒久的な資金措置とエクセレンス大学として得難い称号を受けることとなった。

アーヘン工科大学
ベルリン大学連合
ボン大学
ドレスデン工科大学
ハンブルグ大学
ハイデルベルク大学
カールスルーエ工科大学
コンスタンツ大学
ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン
ミュンヘン工科大学
テュービンゲン大学

このエクセレンス委員会の待望の決定は、ボンにある学術センターでの最終会議のすぐ後に、プレスカンファレンス及びインターネ

ットのライブストリーミングを通じて発表された。連邦政府と16の州政府の共同カンファレンスの共同議長である Anja Karliczek 連邦教育研究大臣、ハンザ同盟都市ブレメンの科学・健康保護担当上院議員の Eva Quante-Brandt 教授は、2019年11月1日から合わせて年間1億4800万ユーロの資金措置を受ける、選ばれた大学と大学コンソーシアムの名前を発表した。ドイツ学術審議会の議長である Martina Brockmeier 教授と、ドイツ研究振興協会の Peter Strohschneider 理事長は、今回の決定の経緯を詳しく説明し、ドイツのエクセレンス・ストラテジーの初期評価を提示した。

「私は選定された大学とベルリン大学連合に、祝辞を述べるとともに大いに敬意を表させていただきます。」と、ドイツ学術審議会議長の Brockmeier 教授は述べる。「彼らは、大学が将来どのような姿になれるか、非常に印象的に示していた。国際的にトップレベルの大学・研究機関と競い合うために、大学は卓越した研究における強固な学術的な基盤と、大学組織に関する明確な目的意識、機関の発展のための堅実な構想を必要としている。選ばれた大学はすべての面に関して、優れていることをとても納得のいく形で示した。」

ドイツ研究振興協会の Peter Strohschneider 理事長は次のように述べている。「エクセレンス大学に関する今日の決定は、57のエクセレンス・クラスターへの資金措置の決定に基づくものだ。これらのクラスターは2018年9月に選定され、2019年1月から資金措置を受けている。このファースト・ラウンドが完了することで、エクセレンス・ストラテジーはエクセレンス・イニシアティブ（2006年、2007年、2012年）の3つのファンディング・ラウンドをさらに拡大する。この両方の競争は国際的な競争力のあるドイツの大学におけるトップレベルの研究を奨励するため、研究と政治の間のすばらしい協力を反映したものとなっている。」

前提条件

エクセレンス大学の称号を競う資格を得るには、2018年9月にドイツ研究振興協会が所掌するエクセレンス・クラスター事業で少なくとも2つ（大学コンソーシアムの場合は3つ）のエクセレンス・クラスターを確保する必要があった。8つの州からの17の大学と2つの大学コンソーシアムが、「エクセレンス大学」事業に申請するための、この正式な前提条件を満たしていた。

その後、ドイツ研究振興協会は、「エクセレンス大学」事業における学術主導の審査プロセスを担当するドイツ学術審議会に本件を引き継いだ。2019年1月から5月にかけて、申請大学及び大学コンソーシアムでの現地訪問が行われた。合計190名の審査員（うち90%以上が海外の研究者）が、大学を総括的に、とりわけ研究、教育、人材の流動性と研究基盤の過去と現在のパフォーマンスを評価するために特別に構想された評価プロセスに参加した。なお、大学と大学コンソーシアムは機関全

体の継続的な発展に関して、説得力のある計画を提示しなければならなかった。

審査手続

2019年7月16日から18日のミーティング、いわゆる専門家委員会（39名の国際的に認められた学者で構成されている）は、19機関の個別評価結果を比較評価した。専門家委員会による資金措置の選奨に基づいて、2019年7月19日のエクセレンス委員会にて最終的な決定がなされた。エクセレンス委員会は専門家委員会と、連邦政府及び16の州の高等教育研究を担当する大臣たちによって構成される。資金措置の決定には、専門家委員会メンバーの過半数の投票と、連邦政府及び州から少なくとも25票を獲得する必要がある。

エクセレンス・ストラテジーの将来

「エクセレンス大学」事業を通じて提供される資金は、原則として恒久的なものである。ただし、エクセレンス戦略を支える行政協定には、ふたつの追加条項が含まれている。まず、選ばれた大学は、資金措置必要条件を満たすために次の公募で再度必要最小数のエクセレンス・クラスターを確保する必要がある。次に、選ばれた大学は7年ごとに定期的に評価され、その結果が良好であれば引き続き資金措置を受けることができる。さらには、競争性が高く学術的に推進される応募手続きで勝ち抜いた場合、エクセレンス大学の2回目の公募で、2026年以降追加で4つの大学もしくは大学コンソーシアムが資金措置を受けられるようになる。エクセレンス・クラスターの事業において、57のエクセレンス・クラスター（34大学が関連）は2018年9月に選ばれ、2019年1月から資金措置を受けている。

エクセレンス・ストラテジーは連邦政府と16の州政府によって、ドイツ連邦共和国基本法の第91b条第1節に基づく行政合意にて2016年6月に合意された。これは、ドイツの大学のトップレベル研究を強化するのみならず、明確な大学組織の発展を奨励し、ドイツの研究及び高等教育システム内での協力を強化することを目的とした恒久的な資金措置事業である。連邦政府と16の連邦州は5億3300万ユーロもの年間総予算を用意している。資金の75%は連邦政府から提供され、25%はそれぞれの州政府から提供される。

2019年7月19日

DFG: Final decisions in the German Excellence Strategy: Excellence Commission selected ten Universities and one University Consortium of Excellence:

https://www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2019/press_release_no_34/index.html

「学術の生命線」：Steinmeier 大統領と Merkel 首相がベルリンでのフンボルト財団の総会に。800 人のフンボルトティアーナ（フンボルト財団奨学研究員）とその家族が参加

今回集まったフンボルト財団（AvH）の研究者はブラジルや中国、アメリカ、ナイジェリア、イタリア、メキシコ、ネパール等の出身である。現在フンボルト財団の支援を受けドイツの大学で研究している約 80 カ国からの 800 人近い研究者が、昨日からベルリンで開催中のフンボルト財団の年次総会に集まった。

昨日 Merkel 首相が総会の開会を宣し、財団が海外のフンボルトティアーナたちの革新的なネットワーク構想に与えるフンボルト同窓会賞を授与した。メルケル首相は学術の自由と多角的協力の意味を強調し、これに加えて国際協力を通じたフンボルト財団の貢献を主張した。首相は「研究者たちのネットワークは、今日学術の生命線として、能動的な、そして形成されたグローバルイノベーションの一部である。世界中の 3 万人の研究者によるフンボルトネットワークは特に際立っている。フンボルト財団は、学術だけでなく社会と文化の架け橋を築いている。」と述べた。

今日フンボルトティアーナとその家族は、Steinmeier 大統領に連邦大統領官邸であるベルビュー城の庭園に招待された。大統領は外国からの研究者たちに、ドイツとの協力に対し「学術的卓越性は、世界の最も優れた人たちの交流と競争で成り立つ。そしてフンボルトファミリーの一員であるあなた方は、それに重要な寄与をしておられ、それにより、ドイツの学術ネットワーク化にも重要な寄与をいただいている。」と感謝の言葉を述べた。

将来の人工知能のためのフンボルト教授

連邦政府の AI 戦略への貢献のため、最大 30 の教授ポストが用意される

フンボルト財団（Alexander von Humboldt-Stiftung：AvH）は 2024 年までに AI の分野において追加で最大 30 人分の教授ポストを用意する予定である。これにより、フンボルト財団は、連邦政府の AI 戦略に貢献したいと考えており、その AI 戦略ではドイツに AI 分野の教授ポストを新設することを目指している。

フンボルト財団のプロフェッサーシップはドイツで最も高額な金額が用意されている研究賞であり、連邦教育研究省から資金措置を受け、実験的研究を行う研究者向けに 500 万ユーロ、理論的研究を行う研究者向けに 350 万ユーロが用意されてい

フンボルト財団 Pape 会長は、出席した研究者たちに分野と国の境を越えるよう呼びかけ、どれだけ学術と社会一般の人々との間の対話が重要であるかを強調した。「私たち研究者は、何をするか、何をすることができるか、そしてとりわけ何ができないかを説明しなければならない。」また彼はフンボルトティアーナたちに「対話し、信頼を強化する新しい道を探そう。私たちが批判的に研究の背景を問われるなら、真摯に耳を傾けよう。」と学術と社会との隔たりをつなぐ架け橋になるよう呼び掛けた。

この日の朝、Steinmeier 大統領は日本の政治学者野口雅弘氏に、ドイツと日本の文化や社会的相互理解に対して学問上特別な功績に贈られる 2019 年度フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト賞を授与した。午後には、アドラースホーフで講演や研究室・キャンパスツアーが開催される。

フンボルトティアーナの大統領訪問は、1955 年以來の伝統であるのと同時に年次総会のハイライトでもある。

2019 年 7 月 27 日

AvH: „Lebensadern der Wissenschaft“: Bundespräsident Steinmeier und Bundeskanzlerin Merkel beim Treffen der Humboldt-Stiftung 800 Humboldtianer und ihre Familien zu Gast in Berlin:

<https://www.humboldt-foundation.de/web/pressemitteilung-2019-14.html>

る。これは外国からの国際的なトップ層の研究者をドイツの大学に惹きつけ、彼らに長期的な可能性を提供している。フンボルト財団のプロフェッサーシップはドイツの大学の経営陣に国際的競争力のある環境を提供し、グローバルな競争で組織を強化する機会を与えている。今のところ、最大 10 件のフンボルト財団のプロフェッサーシップが毎年与えられている。ドイツの AI 分野に特化して、毎年さらに 6 名の教授を募集することができ、今から推薦可能となっている。

「人工知能の研究は、技術的に対応できるだけの問題ではない。社会的、法的、倫理的な側面も考慮しなければならない。」とフンボルト財団の Hans-Christian Pape 会長は言う。

「フンボルト財団のプロフェッサーシップは、私たちの将来に AI が提供する機会を包括的に研究し、活用することに役立つだろう

う。そして、この重要な研究分野において、ドイツを国際的に魅力的で影響力のある場所として強化することに貢献する。」連邦教育研究省の Anja Karliczek 大臣は、2019 年 5 月に行われたフンボルト財団のプロフェッサーシップのAwardセレモニーで、新しい AI 教授ポストの導入を発表していた。

AI 研究のプロフェッサーシップのために、技術分野の研究者のみならず、AI 研究の社会経済的、倫理的且つ法的な側面を扱う研究者も推薦可能である。さらに、すべての分野で最大 10 名分のプロフェッサーシップも通常通り募集している。

ドイツの人工知能は十分か？

調査は AI の分野において、ドイツが米国やカナダ、中国等の国々と競い合うことができるかを示す。

21 世紀の主要なテクノロジーに関して言えば、AI は流行語である。この分野では、産業のみならず科学的知識の面においても、ドイツは米国、中国、カナダに後れをとっている印象がある。これは本当だろうか？ そうであるならばなぜ、より多くの留学生が RISE Germany のようなドイツ学術交流会（Deutscher Akademischer Austauschdienst：DAAD）プログラムを活用して知識を深め、ドイツでのキャリアの見通しをより良いものになっているのだろうか？これはひとつの所見である。

米国出身の Lisa Meyer-Baese 氏（20）はドイツが大好きだ。これには 2 つの理由がある。彼女はカッセル（Kassel）にいるドイツ人の親戚を訪ねることができた上、アーヘン工科大学の大学病院でとても快適に過ごしている。ここでは学部学生がワーキンググループ『実験的行動心理生物学』にて活動している。「Klaus Mathiak 教授と彼のスタッフのサポートはとても素晴らしいものだ。私はたくさんのことを学べている。」と、ジョージア州アトランタのジョージア工科大学で医用生体工学を研究している Meyer-Baese 氏は言う。インターンシップ期間に、彼女は脳の解剖学的構造に関する（右利きまたは左利きの）器用さの影響の問題に取り組んでいる。彼女は、たくさん MRI 画像データセットとコントラストイメージングを駆使し、光学産業向けのモデルと方法論を開発している。Meyer-Baese 氏は、DAAD が今年 RISE プログラムで支援をしている米国、カナダ、英国、アイルランドからの 316 人の学部学生のうちのひとりであり、彼らはドイツの研究機関や産業界で経験を積むことができる。学生たちは自然科学分野、エンジニアリング科学分野を専攻しており、様々なプロジェクトにおいて、博士課程学生による指導を受ける機会を得ている。

2019 年 8 月 8 日

AvH：Alexander von Humboldt-Professuren für Künstliche Intelligenz kommen：Bis zu 30 Professuren sollen als Beitrag zur KI-Strategie der Bundesregierung vergeben werden

<https://www.humboldt-foundation.de/web/pressemitteilung-2019-15.htm>

新しい経験：ドイツでのインターンシップ

カナダ出身の Tanvi Patil（19）も同じことを経験している。彼女はこのプログラムとケルン工科大学でのインターンシップに熱心に取り組んでいる。「ここでサイバーセキュリティについて多くのことを学べるので、これは私にとって非常に良い経験だ。」彼女の現在のプロジェクトでは、ノースカロライナ大学シャーロット校のコンピュータサイエンスの学生がログインの様々なフォームに取り組んでいる。彼らにとって、このドイツでの有益な経験は、学問を修めた後にドイツに戻ってくる理由にもなる。「コンピュータサイエンスと人工知能の専門家は、ここでは非常に需要がある。」

Uma Wu（22）は現在、まったく新しい体験をしている。彼女はバンクーバー出身のカナダ人で、ハイデルベルク大学の大学病院でのプロジェクトで医師と協働している。その学際的なチームにおいて、人工知能と機械学習の経験が最も多いのはブリティッシュコロンビア大学から来ているコンピュータサイエンスの学生だ。このことはチーム全体が手術でのロボット使用や内視鏡検査においてバーチャル・リアリティの使用について取り組むのに役立っている。

「ハイデルベルクでの私の時間は非常に密度が濃い。手術に関して多くを学ぶことができ、将来 AI を通じて外科医師のパフォーマンスを向上させるのに役立つからだ。」と Wu 氏は言う。

RISE Germany：インターンシップの活況

この 3 人の女性は、あるトレンドを象徴している。国際的な経験を持つ若い科学者とエンジニアの需要は、ドイツの産業界と研究界で急増している。同時に、海外からの学生、あるいはポストドクは、ドイツでコンピュータサイエンス、コンピュータ工学の経

験を積むことにますます興味を持つようになってきている。ドイツは工業大国として世界的に高い評価を得ている。

「私たちは今年、316 のインターンシップに対し、学部学生から1,900 件もの申請を受けた。」DAAD の RISE Germany (Research Internships in Science and Engineering) プログラムの責任者である Michaela Gottschling 氏は言う。

「申請者は、インターンシップ中に大学、医療機関、または企業の研究所で働くことができ、英語で博士課程の学生から指導を受けられることに特に興味を持っている。このプログラムは AI のトレンドトピックにも対応している。エンジニアリング科学に加え、生物学、地理、物理学、化学などの分野も、コンピューターサイエンスのインターンシップで提案されている。今年だけでも DAAD はこの分野で 30 の奨学金を与えた。」

上昇傾向：エンジニアリング科学研究

この傾向は、ドイツの総合大学及び専門大学においてみられる。39%の機関において、工学は留学生の間で最も人気がある。ドイツの大学に入学した留学生の3分の1は工学を学んでおり、ドイツの専門大学で学んでいる留学生の半分以上が工学を専攻している。特に大学では、2010年では学生が3万人強だったところ、2017年には6万3,540人に倍増した。インターネットサービスを提供すること、クラウドコンピューティング、データセキュリティ、ビッグデータ、インタラクティブビジュアルコンピューティングなどの分野において、ドイツの旗艦プロジェクトのひとつであるコンピューター科学学部を持つドレスデン工科大学では、コンピューター科学分野の学部学生のプログラムにおいて、留学生の数が2016/2017年の冬学期には55人だったのが、2018/2019年の冬学期には107人となり、ほぼ倍増した。

新しい刺激：AIテクノロジーセンター

別の都市でも同じ傾向がみられる。ザールブリュッケン (Saarbrücken) のドイツ人工知能研究所 (das Deutsche Forschungsinstitut für Künstliche Intelligenz : DFKI) だ。現在、65か国以上の国々から約590人の科学者と、460人以上の学生従業員がここで働き、研究している。ザールラント大学のキャンパスに隣接する大学院では、前学期に前年より18%多くの留学生を受け入れた。彼らはインド、パキスタン、中国、あるいはロシア、カザフスタン出身である。この理由は何なのか？

「2つの理由がある。」と、DAADの認知支援システム研究領域の科学ディレクターである Antonio Krüger 教授は言う。

「まず、この研究機関は AI とその活用に関する研究で 30 年間にわたって知られてきた。他方で、私たちはとても意欲のある修士課程の学生に、産業的な環境下で卒業論文を執筆する機会を与えている。」

2019/2020年の冬学期に、自動車会社の ZF Friedrichshafen AG は、ザールラント大学のザールブリュッケンキャンパスに AI とデータセキュリティの新しいテクノロジーセンターを開設し、DFKI と協力して自動運転の自己学習プログラム及び自社グループの生産管理を研究する。これにより、コンピューター科学の学士課程を完全に英語で実施する計画同様に、留学生にとっても新たなインセンティブが生まれる。2006/2007年の冬学期以降、修士課程は英語のみで指導されている。Krüger 教授によれば、最も優秀な人材を求める国際競争において重要な要件が満たされ、「ドイツでコンピューター科学を研究することは素晴らしいこと」であることを明確に示している。

ドイツの AI の現場へのツアー

ザールブリュッケンの DFKI は、DAAD が主催するポスドクネットワークキングツアー2018の拠点のひとつでもあり、海外からの若手研究者たちは AI とその産業界での応用を研究しているドイツ中の大学機関、研究機関、企業を知ることができた。

「参加者 20 人のうちの多くは既に国際的に活動していた。彼らは米国、カナダ、中国、シンガポール、ベトナム等の出身であり、エンジニア大国で企業や研究機関が AI をどのように応用し、例えばロボット工学でそれをどのように実装するのかに非常に興味を持っていた。」と、DAAD の当該ツアーの共同オーガナイザーであり責任者でもある Julia Hillmann 氏は言う。

「ツアー後の反応は非常にポジティブだった。」ポスドクたちは研究の体制や生活の質について、ドイツを称賛した。

DAAD 職員の Julia Hillmann 氏は、「72%の参加者が、その後ドイツでの研究滞在を計画し、5人に1人がドイツの会社で働くことをイメージできると言っていると喜んでる。

中小企業：研究からの新しい推進力

おそらく、9月末に開催される今年のポスドクネットワークツアーには、東部ヴェストファーレンの隠れた優良企業である Beckhoff Automation も登場するだろう。この企業は PC ベースの制御及び駆動技術により、インダストリー4.0の最前線にいる。

「私たちの技術を若い外国人科学者たちに紹介し、AIとインダストリー4.0における新しいアプローチについて、彼らと話し合うことを楽しみにしている。」と、研究開発協力プロジェクトマネージャーである Ursula Frank 氏は述べる。

「これは、私たちにとっても WIN-WIN な状況だ。なぜなら、中規模の企業として、私たちは常に研究から生まれる推進力や新しいアイデアを受け入れている。」

これが Beckhoff Automation がテクノロジーネットワーク「OWL」のメンバーでもある理由である。このプロジェクトでは、産業と研究が共同でインダストリー4.0ソリューションを開発している。

「DAAD のポストクネットワーキングツアー2019に参加することで、若い外国人科学者をよりよく、より簡単に知る上での新境地を開きつつある。」

ドイツ：産業博物館？

これらすべてを見た後で、私たちは何が言えるだろうか？ ドイツ産業連盟（Bundesverband der Deutschen Industrie : BDI）の Dieter Kempf 会長のような批評家が言うように、米国、カナダ、中国等に追いつくために AI の課題に対してより多くの熱意とスピードを求めると正しいのだろうか？ 熱意の

ドイツ？ 留学生に大人気！

一ドイツが世界で最も重要な非英語圏の留学先に一ドイツ人学生や研究者もより多くが外国へ

Karliczek 大臣：留学生や若手研究者は専門職の需要を満たすためにますます重要である。

ドイツは最も魅力的な非英語圏の留学先としてフランスを追い抜き、アメリカ、イギリス、オーストラリアに次ぐ世界で4番目に重要な留学先となっている。外国人研究者にとって、ドイツは世界で3番目に人気だ。

これらは、ドイツ学術交流会（Deutsche Akademische Austauschdienst : DAAD）とドイツ高等教育科学研究センター（Deutsches Zentrum für Hochschul- und Wissenschaftsforschung : DZHW）が2019年8月15日に出版した報告書『世界に開かれた学術 2019（Wissenschaft weltweit 2019）』で示された。『世界に開かれた学術』のこの第19版は学生と研究者の国際的な流動性に関する情報源である。

欠如や進行の遅さは問題ではないと思われる。それどころかむしろ逆である。科学と研究の拠点であるドイツは、21世紀の主要な技術に関してはふさわしい位置にある。これは、DFKI やドレスデン工科大学などにおける旗艦プロジェクトや、AIとインダストリー4.0を結びつけることに特に興味を持つ留学生数の増加や、RISE Germany や IFI（Internationale Forschungsaufenthalte für Informatikerinnen und Informatiker）等々のプログラムで研究の開始からポストドクの段階までのキャリア全体をカバーすることでドイツのトップパフォーマーを支えている DAAD などによって示されている。米国人と中国人が20世紀の産業博物館としてのドイツを訪れるのはまだ先のことだ。

2019年8月14日

DAAD : Ist Deutschland „künstlich intelligent“ genug?: Eine Bestandsaufnahme soll zeigen, ob Deutschland mit Ländern wie den USA, Kanada und China im Bereich Künstliche Intelligenz mithalten kann

<https://www.daad.de/der-daad/daad-aktuell/de/73025-ist-deutschland-kuenstlich-intelligent-genug/>

Anja Karliczek 連邦教育省大臣は、報告書の出版に際し、「ドイツはますます外国の学生や研究者たちを惹きつけている。ドイツの大学および学術拠点は国際的にますます魅力的になっている。私たちはそれを誇ることができ、またそれをより良くするよう鼓舞されている。この結果は、ドイツの学術および高等教育システムの高い質を示すだけではない。昨年、4万2,000人近くの留学生の卒業生が、ドイツの専門職のニーズに応えるために重要なものであり且つ成長する可能性となっている。」と述べた。

2017/2018 冬学期には37万5,000人の外国人学生が学籍登録し、その中には勉強目的、あるいは人道的理由でドイツにやってきた、28万2,000人のドイツでの大学入学資格を得た留学生を含む。2万4,000人の留学生が、亡命が多い8カ国（シリア、アフガニスタン、イラク、ナイジェリア、エリトリア、イラン、パキスタン、ソマリア）の出身である。彼らのうちのほとんどは難民である可能性がある。連邦教育研究省

（Bundesministeriums für Bildung und Forschung : BMBF）、からの資金措置による、DAADの難民のための高等教育プログラムは、彼らの大学への統合に本質的に貢献している。シリア難民は現在、ドイツの大学において6番目に多い外国出身グループである。

今年の報告書の焦点のひとつは、ドイツで勉強する留学生の動機である。彼らは DZHW が実施した第 21 回社会調査で調査対象となった。回答者の半数以上（52%）にとって、ドイツは第 1 希望の留学先である。79%にとっては決定の際、キャリアまたは大学に関する動機が意思決定に重要な役割を果たしている。それに加えて 83%が良い就職機会への期待、ドイツにおける高等教育の高い質（76%）、国際的に認められた学位（74%）そしてドイツの大学の良い評判（71%）も含む。ドイツは素晴らしい学術の拠点であると考えられている。回答者のうちの 83%が出身国の友人や知人にドイツを留学先として勧めていると述べている。

ドイツ人学生も非常に流動的である。2016 年には約 14 万 5,000 人のドイツ人が外国の大学で卒業を目指して勉学に励んでいた。全ドイツ人学生の約 3 分の 1 が在学中に留学を経験している。

「今日のようにこれほど多くのドイツ人学生が外国に滞在したことは今までにない。それでも私たちは若者が国際的な経験の価値を体験できるよう努力を強化しなければならない。新教員養成国際化プログラム（Lehramt.International）と応用科学大学及び専門大学の国際化（HAW.International）で、これまでまだ流動性が少なかった 2 つの重要なグループに、外国への更なる道筋を開いた。私たちの資金措置イニシアティブに対する高い反響は、時代精神に沿い、グローバルネットワーキングのための大学や学生の需要を満たしていることを証明している。」と、DAAD の Margret Wintermantel 会長は述べる。

ドイツの外国人研究者の数も同様に、世界規模でのドイツの学術システムの質を強調している。10 万 8,000 人以上の外国人研究者が 2017 年ドイツで働いていた。これには、約 4 万

7,500 人のドイツの大学の研究者、4 つの大きな大学以外の研究機関で働く 1 万 2,000 人の研究者、ドイツの学術システムにおける 4 万 6,000 人以上の外国人客員研究者が含まれる。「ドイツの大学の外国人研究者数は過去 10 年間でほぼ倍増している。この飛躍的な発展は、ドイツの教育と研究に新しい創造的刺激を与え、国際的な関係性を保障する。」と DZHW の Monika Jungbauer-Gans 氏は強調する。

現在多くの受け入れ国ではまだ、外国のドイツ人研究者数を比較できるような包括的な数を把握するために必要なデータベースが不十分である。だが DAAD と DZHW はスイス、アメリカ、イギリス、オーストリアを含むいくつかの重要な受け入れ国の大学で働くドイツ人研究者の数を集計した。2018 年は約 3 万人で、そのうち 10%以上は教授である。2017 年はそれに加えて約 1 万 5,000 人のドイツ人客員研究員と約 3,200 人の客員講師が、海外のエラスムス・プラスのプログラムにより国内外の機関で資金措置を受けた。

2019 年 8 月 15 日

DAAD : Deutschland? Bei internationalen Studierenden begehrt! Deutschland zum wichtigsten nicht-englischsprachigen Gastland weltweit für internationale Studierende aufgestiegen – auch mehr deutsche Studierende und Forschende gehen ins Ausland
<https://www.bmbf.de/de/deutschland-bei-internationalen-studierenden-begehrt-9380.html>

政治文化の変化が学問の自由を脅かす

近年、ポピュリズム、ナショナリズム及び攻撃的にエスカレートする新たな思想形態が、西洋の政治文化にますます大きな影響を及ぼしている。言論の自由や寛容といった、自由民主主義の基本的な価値観が攻撃を受けている。ドイツとアメリカの学術におけるこの急進化の帰結について、ロサンゼルス・トーマス・マン・ハウスでの 2 日間のイベントの焦点であった。

ドイツ大学長会議（Hochschulrektorenkonferenz : HRK）の Peter-André Alt 会長はこう述べている：「民主主義社会は、自由な意見交換、検証可能な議論の競争、合理的な解決策の探求に基づいている。これらの基盤は、大学での研究と教育にも不可欠である。したがって、大学は政治文化の現在の変化を注視する特別な責任を負っている。大学は、現在の一連の変化を科学的に分析する必要がある。さらに、大学は

社会的な議論に従事し、開かれた交流の場として自身の機能を批判的に熟考し、さらに発展させる必要がある。」

ドイツ研究振興協会（Deutsche Forschungsgemeinschaft : DFG）の Julika Griem 副理事はこう述べている：「研究資金提供機関は学問の自由に対する攻撃に立ち向かい、（学術を）強化する必要があるが、その価値志向とプロセスも検証する必要がある。一方でこのことは、研究者や研究機関の自治を守ることを意味する。もう一方で、科学は社会の枠組みにおいて確立される必要がある。しかしながら、それは現実の権力の背後に引き下がる誘惑に屈してはならない。多元的社会では、結果について論争し、知識を確実性から切り離すことが不可欠である。私たちは、教育機関及び研究機関の規範的基盤の構築のために共に努力しなければならない。この取り組みを数量化され、自動化された方法にシフトするだけでは不十分である。」

「ひどく政治問題化され、対極化された状況は、最も急を要する問題についてでさえ、建設的で開かれた議論をますます複雑にしている。したがって大学は、専門知識に基づいた議論と知識活動の拠点として、また、一般社会に対する手本として、複雑な問題への答えを共同で探求することの意義に関して重要な役割を担っている。今日の大学にとっての重要な課題は、外部からの破壊的な影響と、このミッションを脅かす内部の緊張に対して抵抗することである。最高の教育機関でさえいかに道を見失い得るかは、マッカーシー時代の米国の大学とナチズムが台頭した頃のドイツの大学によって示されている。」と、カリフォルニア芸術大学の名誉学長であり、トーマス・マン・ハウスの名誉会長でもある Steven Lavine 氏は述べている。

「理由へのアピール」：政治文化の現在の変化に対する学術界の反応として、トーマス・マン・ハウスとの協力のもと、ドイツ研究振興協会とドイツ大学長会議の共同イベントが行われる。これは、「ドイツアメリカの友好の年」の一環として開催され、年末まで催される。

2019年8月28日

HRK : Wandel der politischen Kultur gefährdet

Wissenschaftsfreiheit

<https://www.hrk.de/presse/pressemitteilungen/pressemitteilung/meldung/wandel-der-politischen-kultur-gefaehrdet-wissenschaftsfreiheit-4618/>

DEAL プロジェクトとシュプリンガー・ネイチャー、世界最大規模の変革的オープンアクセス契約に関する合意締結

2019年8月30日、DEAL プロジェクト側の代表である MPDL Services とシュプリンガー・ネイチャーの間で、合意覚書 (MoU) が締結された。これにより、世界最大の包括的なオープンアクセス (OA) 契約が年内に締結される見通しとなった。

※本件詳細については、下記 URL より各国語記事を参照ください。

« Hochschulrektorenkonferenz プレスリリース (ドイツ語) »
Projekt DEAL und SPRINGER NATURE vereinbaren Rahmen für weltweit umfangreichsten Open Access-Transformationsvertrag
<https://www.hrk.de/presse/pressemitteilungen/pressemitteilung/meldung/projekt-deal-und-springer-nature-vereinbaren-rahmen-fuer-weltweit-umfangreichsten-open-access-transfo/>

« SPRINGER NATURE GROUP プレスリリース (英語) »

Projekt DEAL and Springer Nature reach understanding on world's largest transformative open access agreement
<https://group.springernature.com/gp/group/media/press-releases/springer-nature-and-deal-reach-mou-on-largest-oa-agreement/17090258>

« natureasia.com プレスリリース (日本語) »

Projekt DEAL とシュプリンガー・ネイチャー、世界最大規模の変革的オープンアクセス契約に関する合意締結
<https://www.natureasia.com/ja-jp/info/press-releases/detail/8741>

2019年8月30日

研究とイノベーションをより明瞭に

2019年9月から、さらに7つの研究プロジェクトが研究とイノベーションの指標改善に取り組む

地球規模の変化とデジタル化の時代において、どのように知識フローをよりよく理解できるか？何が今日明日の革新的企業を際立たせるか？個人世帯の革新的な行動を把握理解することができるか？大学、経済、学術、政治そして市民社会の間で研究に基づく知識交換のどの特徴が、持続的イノベーションの創出に参与しているか？これらの問いは、7つの共同プロジェク

ト、または個別プロジェクトで研究者たちにより今後3年間追究される。プロジェクトは、連邦教育研究省 (BMBF) の要綱「研究とイノベーションのための指標の更なる発展

(Weiterentwicklung der Indikatorik für Forschung und Innovation)」の第2期資金措置の一環として支援される。

「研究とイノベーションの動向は絶え間なく発展を続けている。新しい研究分野と現象は、指標システム (インディケーターシステム) もさらに発展し続けなければならないことを意味する。支援を受けるプロジェクトは、これらの発展の継続に大きく貢献するだろう。その結果、研究拠点としてのドイツの能力はより良く

把握され、可視化されるだろう。」と BMBF 政務次官でもある Michael Meister 連邦議会議員は述べた。BMBF は、プロジェクトに 1 年当たり 100 万ユーロの資金を支給する。

2019 年 9 月から 10 月にかけてスタートするプロジェクト

ミュンヘン工科大学とマンハイムのライプニッツ欧州経済研究センターは、革新的な企業同士および学術機関との相互作用を評定する。その際、インタラクティブネットワークを生み出すために、例えば Web サイトリンクやソーシャルメディア、プラットフォームのようなオンライン情報が利用される。研究者らは引き続き、ネットワークが起業家の成功を説明するために成し遂げる貢献を分析する。

ハノーファーにある国立科学技術図書館は、テキストマイニング技術を通じてドイツの研究報告書を再分析する合同プロジェクトを調整している。それらの文書は、後援者、科学者、一般の人々にとってより簡単にアクセスできるようにする必要がある。

(このプロジェクトの) 目的は、評価に使用できる新しい指標のデータ基盤を構築することである。

カールスルーエにある、フラウンホーファー システム・イノベーション研究所は、イノベーションシステム内の知識フローの定量化

(数量化) のための指標を開発する合同プロジェクトを調整する。その際、研究者は暗黙知と非公式の交換関係の把握に焦点を絞る。これらの知識フローを確認し測定可能にするために、新しいデータソースが開発される。

ケルン工科大学では、伝統的書誌統計学的指標の代替指数であるオルトメトリクスを研究する。目的は、研究の社会的影響を反映するための信頼できる指標を開発することである。

ベルリンのエコロジ-経済研究所 (IÖW) はベルリン工科大学と協力して、家庭における共同のオンラインに基づくイノベーションプロセスの把握手段を開発する。その際、研究者は持続可能性、エネルギー、交通・都市開発の 3 つの活動の分野において、分散的に組織されたユーザーコミュニティのイノベーション活動を分析する。

ゲッティンゲン大学とダルムシュタット専門大学は、地方の知識移転と持続可能性関連のイノベーションへの貢献との因果関係を研究する。研究者は、どの知識移転システムのどの構造

的特徴が持続可能なイノベーションの要因であるかを分析する。

ギュータスローの高等教育開発センターは、看護学や労働・組織・経済心理学に焦点を絞った大学内の研究開発から社会イノベーションまでの方法を説明する。特に社会イノベーションを生み出すために大学が作り出さなければならない前提条件が分析される。プロジェクトの目的は、大学の社会イノベーションのプロセス、方法、効果を示す一連の指標を開発することである。

プロジェクトは、議長のもと独立した専門家選考委員会により選考された。

ハンナ・ホッテンロット教授 (ミュンヘン工科大学)

その他の選考委員

Arne Bathke 教授 (ザルツブルク大学)

Heike Belitz 博士 (ドイツ経済研究所)

Kerstin Ettl 教授 (ジューゲン大学)

Oliver Falck 教授 (イフォ経済研究所)

Lutz M. Hagen 教授 (ドレスデン工科大学)

Carolin Häussler 教授 (パッサウ大学)

Katja Mayer 博士 (ウィーン社会イノベーションセンター)

Jan-Hendrik Passoth 博士 (ミュンヘン工科大学)

Sebastian Pfothenhauer 教授 (ミュンヘン工科大学)

Marion Poetz 教授 (コペンハーゲン・ビジネス・スクール)

Karoline Rogge 教授 (フラウンホーファーシステム・イノベーション研究所及び・サセックス大学)

Klaus Schuch 博士 (ウィーン社会イノベーションセンター)、

Matthias Weber 博士 (オーストリア技術研究所)

2019 年 9 月 2 日

BMBF: Forschung und Innovation transparenter machen

<https://www.bmbf.de/de/forschung-und-innovation-transparenter-machen-9511.html>

連邦政府内閣がハイテク戦略 2025 に肯定的な評価

一不安定な世界経済のためには教育、研究、イノベーションが重要

連邦政府内閣は今日、ハイテク戦略 2025 の進捗報告書を承認した。

連邦教育研究大臣の Anja Karliczek 氏がそれについて説明：「私たちは昨今の課題に対して、ハイテク戦略 2025 で対応している。始めに 12 の主要なトピックを定め、それぞれに野心的な目標を設定した。これらは議会が終わった後もさらに進展している。本日閣議で承認された過去 12 か月の進捗報告は、私たちが正しい軌道に乗っていることを示している。既に重要な段階に達していると言える。

癌研究において、ドイツのすべての患者が医学の進歩の恩恵を受けられるように、私たちは新境地を開拓し、最先端の研究からの成果の移転を促進している。このようにして、私たちは早期発見された治療可能な癌の発見率を上げることができる。私たちはできるだけ多くの癌患者を予防し、患者たちにとってより良い生活を実現したいと考えている。この目的のために、私たちは、新しい健康研究フレームワークプログラムの傘下で、今年初めに国家戦略「癌に対する 10 年」を開始した。また 1 月には、「癌患者の予防、診断、治療のための実践的-完全臨床研究の推進」と題した公募事業を発表した。

2019 年 6 月には、気候保護計画 2050 の科学プラットフォームを開始した。この新しいプラットフォームは、CO₂ の無い経済と社会への移行のための科学的基盤と技術的ノウハウを提供してくれるだろう。また、ここ数か月で、科学、経済、社会の主要なプレーヤーとの持続可能な開発のためのフレームワークプログラム研究のアップデートの準備を行った。デジタル化は、持続可能性の推進力としてさらに活用する必要がある。そして 2 月には、私たちは FONA フレームワークプログラムの 4 番目の先導的戦略事業として、「生物多様性保護研究戦略」を開始した。2 億ユーロの予算措置により、今後 5 年間、生物多様性研究へ大きく貢献できるだろう。

プラスチックを使わないようにするために、私たちは 5 つの連邦省庁と協働している。私たちは様々な対策事業を共に取りまとめている。例えば、2021 年まで施行される優先的研究の「環境におけるプラスチック - 発生源 - 削減 - 解決策へのアプローチ」、2018 年 11 月に提案されたプラスチック製品回避のための 5 つのプラン、及び BIO 経済における生物由来のプラスチック関連研究と開発促進などがそうだ。

そして、私たちは教育の分野でもここ数か月で多くのことを達成した。例えば、デジタル協定を立ち上げ、国内、欧州及び海外の専門的な将来性へアクセスしやすくするための専門家戦略を採用し、2019 年 6 月に全国的なアドバンス・トレーニング戦略を発表した。

私は、研究とイノベーションを通じて、ドイツの結束を確実に強化できると確信している。「機会 - 地域」の概念では、私たちはドイツ国内の体制的に弱い地域のための様々な資金策

をとりまとめており、教育、研究、イノベーションの観点を統合させている。私たちの新しい社会連携研究所(Forschungsinstitut Gesellschaftlicher Zusammenhalt : FGZ)を活用して、私たちは農村部と都市部における参画と連携の構造を調査したいと思っている。また、連邦政府の主要なファンディング・プログラムをとりまとめることで、体制的に弱い地域向けの全国的なファンディングシステムも開発するつもりである。

私たちは人々の考えを真摯に受け止め、私たちの政策を具体化するのに、彼らが積極的に関与することを望んでいる。ハイテク戦略 2025 は、いかにして政治が人々と共に何かを作り上げられるかの実例だと考えている。例えば、未来カンファレンス 2019 の機会に、「ヨーロッパの未来に関する市民の対話」、あるいは AI に関連して、現在のトピックに関する市民との対話を定期的に実施している。全体として、市民科学の分野を更に強化、拡大した。そして、ネットワーキングプラットフォーム「市民による知識の創造」の推進も継続される。私たちは、私たちの国のすべての市民と、一緒に未来を形成していきたい！」

背景

連邦政府は、ハイテク戦略により、各議会の開始時に、研究とイノベーション資金調達のための戦略的権限を定義している。2018 年 9 月に開始された連邦政府のハイテク戦略 2025 は、今後数年間の研究とイノベーションの方針における省庁間の目標、優先順位、マイルストーンを策定する。これは、研究開発への投資を、2025 年までに現在の国内総生産の 3%から 3.5%に戦略的に増やすという目標を強化している。

2019 年 9 月 4 日

DAAD: Bundeskabinett zieht positive Bilanz der Hightech-Strategie 2025

<https://www.bmbf.de/de/bundeskabinett-zieht-positive-bilanz-der-hightech-strategie-2025-9528.html>

你好-中国とのネットワーキング

中国は産業や科学において、ますます重要な役割を担っている。ドイツの企業や研究者たちにとって、中国において足場を築くことと関係性を確立することがますます重要になっている-例えばドイツあるいは中国の同窓生や利害関係者に、専門知識を

交換し合う機会を提供するドイツ・中国の同窓生ネットワーク (Deutsch-Chinesischen Alumnifachnetzwerke : DCHAN) の助けを借りることなどが挙げられる。スタートアップ企業の創設者である Thomas Wuttke 氏はこの機会を利用した。

「私が上海への旅を始めたとき、私の期待はそれほど高くなかった。」と、ライプチヒ出身の Thomas Wuttke 氏は言う。通常、投資家やビジネスパートナーを見つけることは偶然のことである。投資家を探す際、組織化されたピッチ（意味：プレゼンテーションより短く、アイデアの要点をわかりやすく短く提案すること。不特定多数の、必ずしも専門を同じくしない聞き手を対象に行われることが多い）は限られた範囲でしか役に立たない。しかし、今回彼は良い意味で驚いた。Wuttke 氏と彼のスタートアップ企業「diafyt MedTech」は、中国を知り、現地で新しいネットワークを作り、さまざまなピッチに参加するために 2018 年夏にライプチヒ DC ハブによって選ばれた 6 つのチームのうちのひとつだった。ライプチヒ DC ハブは、ドイツ・中国同窓会ネットワーク（DCHAN）に属する 7 つの同窓会ネットワークの一つである。

「私は中国がどのような仕組みなのか学ぶためにすべてを見分けたかった。」と、Wuttke 氏は述べる。彼は、diafyt という、AI 制御で糖尿病患者がインスリンを適切に投与できるようにするアプリを立ち上げたいと考えている。彼は上海に着くとすぐに、彼と共に働きたいと考えていた中国の新興企業と連絡をとった。この企業はグルコースセンサー用のハードウェアを開発していた。

「ドイツでは適切なサービスプロバイダーが見つからなかった。」

中国人たちは協働することに非常に関心を示し、ビジネスミーティングをセッティングした。

「素晴らしかった。すべてが簡単で速やかだった。」

プロジェクトは現在保留中だが、彼らはまだ連絡を取り合っている。一方で、他の中国企業はライプチヒの新興企業の存在を認識しつつある。例えば、中国の製薬会社 Tasly は、ライプチヒに基盤を持つ企業と共同プロジェクトを進めたいと考えている。

中国を理解し、関係を築く

「数十億規模の市場である中国で足場を築きたいのであれば、中国とその国民を理解することを学ばなければならない。」と Wuttke 氏は言う。彼の訪中は彼の偏見を取り除き、中国がいかに現代的でデジタル化されているか認識するために重要なものだった。その間に、彼は瀋陽大学の客員講師として 2 度中国を訪問した。そしてライプチヒの自宅で、彼は中国を販売市場、または生産拠点としてよく理解するために、新興企業や企業向けにワークショップ、イベント、中国滞在を運営する専門的基盤である DC ハブとの関係を引き続き深めている。

二国間協力：大きな関心

ライプチヒ大学の DC ハブは DCHAN ファンディング・プログラムの一環であるため、このような事業の実施が可能である。DCHAN ハブは 2017 年から連邦教育研究省から資金提供を受けており、中国国内で学び、研究し、働き且つネットワークを構築したドイツ人同窓生、科学者たちを介したドイツと中国との協働を促進することを目指している。

「そして、それに対する関心は、ドイツ人だけでなく中国の同窓生の間でも大きい。」と、ドイツ学術交流会（Deutscher Akademischer Austauschdienst：DAAD）の DCHAN 付随プロジェクト責任者である Cécile Jeblawei 氏は述べている。

「最近、アーヘン工科大学で彼らと再生可能エネルギーと e モビリティについて意見交換するために会った際、70 人の参加者の半分は中国から来ていた。」

この理由は、ドイツと中国の学術界、産業界の同窓生たちが、二国間協力が理にかなっていることを見出したからであると言える。ドイツの基礎研究と中国の応用経験は、理想的に補完し合っている。一方で、他の分野でも協力する価値がある。例えば、フライブルクとハイデルベルクのドイツ人専門家たちは、彼らの中国人の同僚と共に中国の病院で、以前は無視されていた心身医学の部門を設立している。彼らは革新的な医学の教訓的な概念を発展させ、両国の専門的知識と協力の要請を経済的な方法で結びつけた、最初のドイツと中国のコンサルティング・プラットフォーム形成に取り組んでいる。

7 拠点の同窓会ネットワーク

DCHAN は現在、ドイツの大学や研究所の支援のもと、7 つの同窓会ネットワークを提供している。これらには様々な分野とトピックが含まれている。

2019 年 9 月 9 日

DAAD: Ni Hao – mit China vernetzen

<https://www.daad.de/der-daad/daad-aktuell/de/73799-ni-hao--mit-china-vernetzen/>

留学生の学問的成功の増加

ドイツが世界で最も重要な非英語圏の留学先にドイツ人学生や研究者もより多くが外国へ

カリチェック大臣：留学生や若手研究者は専門職の需要を満たすためにますます重要である。

現在、280,000名以上の留学生（この記事では、厳密にはドイツの大学への入学資格をドイツ以外の国で得て、ドイツの大学に留学しに来ている学生を指す。以下留学生とする）（※）がドイツで学んでいる。しかし彼らのすべてがドイツで首尾よく学業を修了できるわけではない。ドイツ学術交流会(Deutscher Akademischer Austauschdienst：DAAD)の研究教育部、戦略部門長の Christiane Schmeken 氏と、教育社会学者の Jesús Pineda 博士は、インタビューの中で事の背景及び、ドイツの大学がいかにして留学生たちの学問的成功をサポートできるか説明する。

（※）ドイツには Bildungsausländer のほかに、Bildungsinländer という区分もあり、こちらはドイツ国内で大学への入学資格を得ている学生のことを指すが、ドイツ以外の国籍の学生も含まれる。

連邦教育研究省が資金措置を行っているプロジェクト「学部及び修士課程におけるドイツの留学生の学問的成功と退学」
("Studienerfolg und Studienabbruch bei Bildungsausländern in Deutschland im Bachelor- und Masterstudium"：SeSaBa)において、DAAD、ハーゲンのフェーン大学、バイエルン州立高等教育研究所（das Bayerische Staatsinstitut für Hochschulforschung und Hochschulplanung：IHF）は、ドイツにおける留学生の特定の修学状況を共に分析している。なぜこの取り組みが必要なのか？

Christiane Schmeken 氏：「ドイツの高等教育学術研究センターからの統計データは、留学生の退学率が特に高く、学士課程では45%、修士課程では29%であることを示している。これらの結果は満足できるものではなく、特に注意が必要である。私たちの SeSaBa プロジェクトでは、ハーゲンのフェーン大学、及び IHF が、2021年までの退学の原因と学問的成功の決定要因を調査し続けている。

研究プロジェクトを評価するために、特定の基準が使用されていた。これらはどのようなものであり、最初の結果はどのようなものだったのか？

Dr. Jesús Pineda 氏：私たちは学問的成功も退学も、複雑で複数の原因を持つ現象であると考えている。したがって、学業を中断する原因のひとつを特定するだけでなく、多くの組み合わせ、またはより適切な言い方をすれば、課題の重複についても考慮に入れる必要がある。これらを特定するために、私たちは大学の代表者たちと留学生を含むフォーカスグループと共に、2017年にエキスパート・ワークショップを実施した。例えば、一連の定性的予備調査で、多くの留学生が誤った期待を持ってドイツに来ていることがわかった。私たちはなぜそうなるのか、彼らがどの情報源を活用しているのか探った。彼らの失望を防ぐためには、高等教育機関がどのように情報提供を改善すればいいのか、海外の機関とより密接に協力できるかを検討する必要があるだろう。そして、留学希望者はドイツ語を習得することがかなりの挑戦であることを事前に知っておかなければならない。この問題には客観的なレベルと主観的なレベルの両方が含まれる。実際の言語能力と自己評価は往々にして異なる。多くの留学生は正式な要件を満たしていればうまく勉強できる、ということに依存している。言語証明書があるにも関わらず、講義中に教授の言うことを理解していないのなら、失望はそれに応じて大きくなる。英語の学位プログラムの学生は、しばしば彼らの学位プログラムが完全に英語で実施されるのではないかと誤解していることが良くある。しかしながら、多くの大学は、ある程度の情報はドイツ語のみで提供している。

何故留学生たちの学問的成功がドイツの大学のマーケティングに密接に関連しているのか？

Christiane Schmeken 氏：高等教育方針と研究にとって、留学生の学問的成功の増加は重要な戦略的目標だ。満足した卒業生たちの存在は、ドイツで学ぶことにとって優れた大使となる。また、国内の学生数が減少する時代に、ドイツの大学は非常に優秀な留学生を獲得するために以前にも増して競争し合っているため、個々の大学のマーケティングにおいても彼らは役割を担っている。現在、ドイツの大学のインフォメーションページは大学や研究に関する一般的な情報を提供するだけでなく、その大学での留学生の成功と満足度も明確にしている。

高等教育の国際化をめぐるドイツと競っているホスト国を見ると、留学生は国内の学生よりも成功していることが多いことがわかる。これはどのように説明できるか？

Dr. Jesús Pineda 氏：確かに、他のホスト国を見ると、どこでも留学生の退学率は国内の学生の退学率よりも高くないことがわかる。例えばこれはアメリカやオーストラリア、オランダに当てはまることだ。これには確かに様々な理由がある。2019年1月の DAAD フォーカス「ドイツとその他の重要なホスト国における留学生の学問的成功と退学」で、私の同僚の Jan Kercher 博士は高等教育システムの資金調達の程度が、学生カウンセリングやサポートにとってある影響力を持つと分析している。上記の国々で成功率が高いのは、ある程度は留学生の授業料が高いことと、費用をかけた教育指導によるものであろう。もちろん、アメリカやオーストラリアでは英語が話されているという事実も関連している——多くのオランダのコースも、英語で行われている。これにより、留学生たちにとっての大きなハードルが取り除かれている。社会学的な観点から見ると、なおも検証されるべき仮説の一つは、移民社会としての長い伝統を持つアメリカとオーストラリアは、多様性の問題に対処する経験が多いのではないかと、ということだ。

DAAD は留学生たちの成功のために何をやるのか？

Christiane Schmeken 氏：私たちの対策は、分析、マーケティング、サポートの3点に焦点を当てている。一方では、学生の成功を評価し、決定的な要因を理解することが重要だ。このため、DAAD は留学生たちの動向と、ドイツ内の学業中断の割合を常に分析している。例えば、「ドイツの大学での国際性に関するプロフィールデータ」プロジェクト、出版物「サイエンス・コスモポリタン」や、SeSaBa の研究活動などだ。ここでは、私たちは出身地に応じて差別化されたイメージを描くことにより、大学が最も適したターゲット国を選択するのをサポートする。これは、国際大学マーケティングが入学希望者や大学が彼らの期待感に都合をつけるのにどのように役立つかのほんの一例である。双方が何に期待しているかと正確に知っているほど、成功の可能性は大きくなる。結局 DAAD は連邦外務省からの資金援助を受けて、STIBET プログラム (Stipendien- und Betreuungsprogramm) を活用して、ドイツの大学と留学生と博士課程入学希望者を支援している。現在でも 28 の新しいプ

ロジェクトが留学生の学問的成功を増加する目的で開始されている。

STIBET プロジェクトはどのように支援を行うのか、そしてその特徴は何か？

Dr. Jesús Pineda 氏：STIBET プログラムは、第一に、留学生を歓迎する考え方を向上させることを意図したものである。主要な目標は、ドイツのポジティブなイメージを発展させ、留学生たちが修学後もドイツとつながりを保ち、さらにはドイツの労働市場の専門的な人材として採用されるように、彼らが大学の場でしっかりとその一員となることである。モデルプロジェクトは、留学生の学問的成功を向上させるために開発されている。私たちは大学を支援・指導するだけでなく、大学と集中的に意見交換を行って最良の方法を開発する。これらのことは他の大学の利益につながる。

ドイツの大学は、留学生の退学に対抗するために独自のイニシアティブをもって何が出来るか？

Christiane Schmeken 氏：現在、多くの大学は、入学希望者たちがどの学位プログラムに適合するかについて非常に正確な考えを持っている。正確で適切な選択は、(自身の学業に)満足して成功した留学生を惹きつけるための最も重要な前提条件だ。他の重要な要素は、優れた社会性及び専門的なサポートと、留学生をつなげるための方策である。いわば分散的に組織されている傾向にあるドイツの大学特有の課題は、多様なオフアをとりまとめて、学生がそれらを見つけて活用できるようにすることである。アングロ・サクソン諸国の大学が高い授業料のおかげで提供できるオールラウンドで楽しいプログラムと競争できないとしても、私たちは SeSaBa プロジェクトをもって、ドイツの大学が留学生を更に効果的にサポートする方法を見つけることができると確信している。

2019年9月13日

DAAD: „Den Studienerfolg ausländischer Studierender erhöhen“

<https://www.daad.de/der-daad/daad-aktuell/de/73814-den-studienerfolg-auslaendischer-studierender-erhoehen/>

見えないものを見るように－『物理学のハイライト』がボンへ

『物理学のハイライト』開催/Karliczek 連邦教育研究大臣：
「私たちは発見の自然な精神を喚起し、自然科学への関心を高めたい」

ボン、2019年9月16日、『姿を現せ！見えないものを見るように』のスローガンのもと、16日から21日にかけてボンは科学フェスティバル『物理学のハイライト』の舞台となる。連邦教育研究大臣のAnja Karliczekは、ドイツ物理学会（Deutsche Physikalische Gesellschaft：DPG）のDieter Meschede会長とボン大学のMichael Hoch学長と共に、今日、ボンのテレコム・ドームで大規模な科学ショーとして、一週間の物理学ショーを開始する。約5万人の訪問者が見込まれている。『物理学のハイライト』の主催者は、連邦教育研究省（Bundesministerium für Bildung und Forschung：BMBF）、ドイツ物理学会、ボン大学である。

連邦教育研究大臣のAnja Karliczek氏は、ボンでの今年のイベントで次のように強調した。

「私たちは、『物理学のハイライト』で若者たちの発見の精神を喚起し、大人たちの科学への関心を深めたい。連邦都市のボンは、連邦研究省の最初の公邸として、また新たにエクセレンス大学の称号を関した大学のある場所としてそれに最適な場所である。ドイツには、数学、コンピューターサイエンス、自然科学、技術に熱心な人材が必要だ。このようにして、私たちは革新的な国家として世界の最前線に居続け、繁栄を保っている。エキサイティングな専門家たちの世界、MINTにより多くの若者たちを惹きつけたい。そのため、数か月前に、新しい方策と共にMINT教育を強化することを目的としたMINTアクションプランを公表した。」

研究者はどのようにして目に見えないものの可視化に成功するのか？物理学では、最小の粒子または遠方のブラックホールを調査するために、最先端の研究施設と測定方法を活用している。ドイツ中の物理学者は、『物理学のハイライト』でこのような最新の発見をわかりやすく紹介し、訪問者たちの質問に答える。

このイベントの中心は、ミュンスター広場での参加型の展示会で、約50の展示がある。子供向けのシアター、ジュニアラボ、実践的なワークショップ、学校の生徒のためのコンペティションが行われ、主催者は子供と青少年をターゲットにしたいと考えている。そのほかのハイライトとしては、カラフルなサイエンスショーのプ

ログラム、ライブ実験、サイエンススラム、著名な研究者による講義などがある。

このフェスティバルでは、約4500人の参加者とともに9月16日の夕方に「ハイライトショー」が開催される。著名なゲストとのプログラムは、ARDサイエンス・モデレーターのRanga Yogeshwar氏が行う。「科学とエンターテインメント、ライブ実験、ロボット・アクロバット、アート、コメディ、ライブ音楽との組み合わせにより、訪問者を物理学と情報科学の魅力に惹きつける。私たちは、モバイルレスキューロボットを研究しているAI研究者と対話し、物理学者が新しくより良い顕微鏡と望遠鏡で宇宙の最も深い部分を探索していることを紹介する。」と、ドイツ物理学会のDieter Meschede会長は言う。

ボンは『物理学のハイライト』の19番目の場所である。

「ボン大学には長年の優れた物理学の伝統があって、これはノーベル賞受賞者のヴォルフガング・ポールの評判とも密接に関連している。したがって、ボンでユニークな科学フェスティバルを開催することは理にかなったことである。そのため、このイベントが私たちの200年の歴史の節目となることを、私はなお一層嬉しく思う。昨年、アーヘン、ケルン及びユリッヒと協力して6つのクラスターのひとつとして「ML4Q クラスタ・オブ・エクセレンス－量子情報のための物質と光－」を獲得できた後、ボン大学は2019年7月からエクセレンス大学に採択されているのだ。」と、ボン大学のMichael Hoch学長は述べている。

今年の特別なオファーとして、物理学者のMetin Tolan教授とPhysikanten & Co.(※)のエンターテイナー、Marcus Weber氏のユーモラスなクイズショーがある。有名な作曲家のLudwig van Beethovenがかつてオルガンのレッスンを受けたシュロス教会では、シリーズ講義『見えないものを聞こえるように』が開催される。科学者は様々な楽器を鮮やかに扱い、それらを鳴らし、それらの背後に隠れている物理的性質を説明する。さらに、ボン物理学ショーの3つの講演がヴォルフガング・レクチャーホールで行われる。これら及びすべての『物理学のハイライト』のプログラムへの参加は無料である。

(※) Physikanten & Co.とは、科学者、俳優等が科学ショーを行うパフォーマンス、ショーを提供している企業。

今年も多くの機関が「物理学のハイライト」を支援している。これらには、ボン市、ヴィルヘルム&エルゼ・ヘルス財団、ハンス・リーゲル博士財団、テレコム財団、ベートーヴェンフェスティバル、インターネットプラットフォーム・ワールド・オブ・フィジックスが含まれる。メディアパートナーは新聞社のBonner General-Anzeigerである。

2019年9月16日

BMBF: Unsichtbares sichtbar machen – "Highlights der Physik" kommen nach Bonn

<https://www.bmbf.de/de/unsichtbares-sichtbar-machen---highlights-der-physik-kommen-nach-bonn-9641.html>

調査「外から見たドイツ」：海外の科学者は研究の場としてのドイツを称賛し、官僚主義を批判する

フンボルト財団が140か国以上の研究者の経験进行评估

ドイツ人はどのくらいオープン且つ寛容に海外の研究者に対応しているか？ドイツの人々はどのくらい独創的で、進歩的で、官僚的で、親切か？研究所や図書館はどのくらい設備が整っているか？1800人を超えるフンボルト財団（Alexander von Humboldt-Stiftung：AvH）の研究奨学生は、過去6年間の滞在中に得た経験を評価している。

その結果、ドイツとその科学システムは海外で前向きに認識されている。とりわけ科学への親近感、寛容さ、民主主義、進歩性が称賛されている。労働時間、男女平等、ホスピタリティも国際比較でみると肯定的に評価されている。一方、官僚主義、言語の壁、日常生活における社会的まとまりの欠如に対する批判が見られる。若い研究者の昇進も、特に米国からドイツに来る奨学生の観点から見ると、あまり良いものではない。

「フンボルト財団の奨学金受給者たちから私たちが受けとる肯定的な感想は、少なくとも、省察の動機でもあるが喜ばしいことでもある。」と、フンボルト財団の Hans-Christian Pape 会長は、調査の結果についてコメントした。

「国際的な場での競争において、ドイツに対する多くの称賛とドイツに大きな強みがあることには満足できる。これは宣伝できることだ！しかし、官僚主義と才能ある若手の将来の見通しに対す

る批判は、模範生であるドイツが喫緊に改善する必要があることを示唆している。」と Pape 会長は述べている。

「外から見たドイツ」調査の結果詳細はこちら：

<https://www.humboldt-foundation.de/web/Deutschland-von-aussen.html>

ドイツでの研究滞在中の、1800人のフンボルト財団奨学生からのフィードバックが評価された。平均1年半の滞在中の最後に行われたオンラインアンケートで、若手科学者はドイツでの仕事と生活の様々な側面を所定の尺度で評価した。インタビュー対象者にはコメントする機会も与えられ、すべての回答は匿名で扱われた。過去6年間、140か国以上からの奨学金受領者のうち、95%が調査に参加した。したがってこの結果は、フンボルト財団の奨学金受給者がドイツに対して持つ包括的かつ象徴的なイメージを反映している。

2019年9月19日

AvH: Befragung „Deutschland von außen“: Internationale Wissenschaftler loben den Forschungsstandort Deutschland – und kritisieren die Bürokratie.

<https://www.humboldt-foundation.de/web/pressemitteilung-2019-19.html>

マックス・プランク・フンボルト研究賞、2019年に第2期に入る

人文科学及び社会科学の2人のトップ研究者が表彰

シカゴ大学の Ufuk Akcigit 氏は、今年のマックス・プランク・フンボルト研究賞の受賞者である。このトルコ出身の経済学者は、マクロ経済学の分野での顕著な業績が評価され、賞を受賞した。この賞に関連するドイツでの研究滞在中で、彼は東ドイツと西ドイツの経済格差の原因を調べている。

人格と発達心理学の分野での業績に対して、テキサス大学（オースティン）の Elliot Tucker-Drob 氏もマックス・プランク・フ

ンボルト研究賞を受賞した。11月5日にベルリンのサイエンス・ウィークの一環として、連邦教育研究省の Anja Karliczek 大臣、マックス・プランク協会（Max-Planck-Gesellschaft）の Martin Stratmann 会長、フンボルト財団（Alexander von Humboldt-Stiftung：AvH）の Hans-Christian Pape 会長が賞の授与を行う。

「最先端の研究をドイツにもたらすことが、この賞の重要な目標である。Ufuk Akcigit 氏の実証研究結果から、西ドイツと東ドイツの様々な経済発展経緯の原因をより正確に理解できるようになると考えている。」と、Anja Karliczek 大臣は述べている。

「今年、人文科学と社会科学の分野に対し、初めてマックス・プランク・フンボルト研究賞を授賞した。Ufuk Akcigit 氏と Elliot

Tucker-Drob 氏に、明日の世界を形成するのに役立つ革新的で先駆的なアイデアを持つこの 2 人のトップ研究者に栄誉を授けたい。」と、マックス・プランク協会の Martin Stratmann 会長は述べる。

「関連する科学者や機関だけがこの賞の恩恵を受けるわけではない。双方の研究トピックは、社会への関連性が非常に高いため、公的及び政治的議論の重要な刺激になることを期待している。」と、フンボルト財団の Hans-Christian Pape 会長は述べている。

ドイツでの研究滞在中、Ufuk Akcigit 氏は統一後 30 年経ってまだ関連している問題の底にたどり着いた：なぜ東ドイツと西ドイツの間にまだ経済的な格差があるのか？

「賞金 150 万ユーロで、ライプニッツ研究所ハレ(IWH)のパートナーとのコラボレーションを強化できる。3 つの共同プロジェクトで、東部と西部の生産性の伸びと生活条件の違いの原因を探っている。」と、受賞者の Ufuk Akcigit 氏は説明する。シカゴ大学の経済学教授

は、現在の成長理論の分野で国際的に認められた専門家である。例えば、彼の以前の研究では、彼はアメリカにおけるイノベーションと長期経済成長の間と、イノベーションと社会的流動性の間、そしてイノベーションと幸福感の間に強い関連があることを実証することに成功した。

今年、マックス・プランク・フンボルト研究賞は、発達心理学、老年学、行動遺伝学の分野への貢献に対して、テキサス大学オースティンの准教授 Elliot Tucker-Drob 氏を表彰する。彼は、社会的、及び生物学的プロセスがどのように生涯にわたって

人々の心理的発達を形成するか調査している。ゲノムと環境の間の複雑な相互作用に関する彼の研究は、教育と社会政策に重要な衝撃を与え、社会主義と機会均等に関する議論の質を高める。Elliot Tucker-Drob 准教授は、マックス・プランク人間発達研究所所長の Ulman Lindenberger 教授によってこの賞にノミネートされた。

マックス・プランク協会とフンボルト財団は、2018 年に再設計された 150 万ユーロ相当のマックス・プランク・フンボルト研究賞を海外の研究者に授与している。この賞には個人賞金として、8 万ユーロが追加される。評価の焦点は傑出した将来の可能性によって特徴づけられる人物にあてられる。例えば、ドイツの大学や研究機関に一時的に滞在することを目指して、（現在は）海外で働いている特に革新的な科学者に授与される。連邦教育研究省が資金を提供するこの賞は、フンボルト財団とマックス・プランク協会が例年 2 人の研究者に授与してきたマックス・プランク研究賞に代わるものである。この賞は毎年、自然科学と工学、生命科学と人文社会科学の分野で交互に授与されるものである。さらに、追加で最大 2 名までがノミネートされ、それぞれにマックス・プランク・フンボルトメダルが授与される。これにも 6 万ユーロの賞金が与えられる。

2019 年 9 月 20 日

AvH: Max-Planck-Humboldt-Forschungspreis geht 2019 in die zweite Runde

<https://www.humboldt-foundation.de/web/pressemitteilung-2019-20.html>

ドイツのお酒といえばビールをイメージする方が多いかもしれませんが、優れたワインの生産地としても知られています。ドイツ国内の主なワイン産地は、世界のぶどう栽培地の中でも最北の北緯 47~52 度に位置し、ヨーロッパの他の生産地に比べ、日照時間が短く気候条件に恵まれているとはいえません。ライン川やその支流の流域では、土壌のミネラル分が豊富でぶどうの栽培に適しているとされ、川沿いの急斜面に多くの畑が作られているのを目にします。急斜面にすることにより日照条件をよくなり、川面に反射する太陽光が栽培地一帯を保温することにより、寒さからぶどうを守るような工夫がされています。

旅行で訪れたヴェルツブルクは、代表的なフランケンワインのワイナリーがあることで知られています。そのうちのひとつは世界遺産のレジデンツ宮殿の地下にあり、ドイツの人々がいかにワイン醸造に力をいれてきたのかを実感することができました。

渡邊 国際協力員



▲ワインセラー



▲特徴的な形のワイングラス



▲急斜面に作られたぶどう畑

センターからのお知らせ

着任の挨拶

出口智子副センター長が2019年9月末に帰任し、後任として10月より副センター長に着任しました青山 誠（あおやま まこと）と申します。直前は、日本学術振興会の東京本部で世界10か所にある海外研究連絡センターを管理する業務などをしておりました。海外での勤務は初めてですが、今回そのような機会を頂戴し大変光栄に感じております。センター長や現地職員、国際協力員に助けをいただきながらセンターの運営に励んでまいりますので、皆様にもご指導賜れればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

日本人研究者ネットワーク（JR-Net）のご紹介

本センターHPでは、ドイツ語圏で自主的に立ち上げ運用されている日本人研究者ネットワークを紹介しています。詳細はこちらをご参照ください。

<https://www.jsps-bonn.de/ja/to-all-japanese-researchers/japanese-researchers-network/>



日本学術振興会ボン研究連絡センター
JSPS Bonn Office
Wissenschaftszentrum
Ahrstrasse 58, 53175 Bonn（事務所住所）
Postanschrift: 20 14 48, 53144 Bonn（郵便物用）
Tel. +49(0)228-375050
Fax +49(0)228-957777
www.jsps-bonn.de